

診断結果を活用へ

全ト協、700人助成拡大へ

全日本トラック協会(坂本克己会長)とヘルスケアネットワーク(〓OCHIS、武田裕理事長)は平成30年度から、ドライバーの定期健康診断の事後フォローを支援する「運輸ヘルスケアナビシステム」の運用を始めた。健康起因事故が課題となる中、OCHISの作本貞子副理事長は「ドライバーの健康は事業の「生命線」とし、運送会社の活用も広がりつつある。

見える化で治療し、改善へ

同システムは各ドライバーの定期健康診断の結果を見える化するもの。分かりやすさを重視し、肥満、高血圧、脂質異常、高血糖の症状といった「死の四重奏」に該当する項目には、●▲印ですぐ見分けられるように工夫した。SAS(睡眠時無呼吸症候群)の疑いがあるドライバーも色分けしている〓図。

OCHIS「運輸ヘルスケアナビシステム」

「健康状態の見える化はドライバー、管理者の意識を高めることが狙い」と作本副理事長。これまで検査結果は病院でとくに統一されず、受診者の理解不足や再検査を受診しない傾向があった。ドライバーや企業の健康意識も決して高くなかった。

「運輸ヘルスケアナビシステム」の判定結果は一目瞭然

システムの活用事例 ～健康診断結果比較～

上段：平成29年度の結果、下段：30年度の結果

	年齢	性別	肥満	BMI	腹囲	高血圧	治療中	内服	脂質異常	高血糖	★数
1	57	男	▲☆	27.4	99.4	●☆			●☆	▲☆	3
	58		▲☆	25.6	92.6	▲	○	あり	▲	▲☆	2
2	65	男		23.9	84.0	●☆	○		●☆	▲☆	3
	66			22.4	83.2	●☆	○	あり	▲☆		2
3	64	男		20.5	69.0	●☆	○		▲	▲	1
	65			20.4	69.0	●☆	○	なし		▲☆	2
4	58	男		23.4	82.3	●☆	○		●☆	▲	2
	59			22.7	83.0	●☆	○	あり	▲	▲	1
5	63	男	▲☆	24.2	85.0	●☆			▲	●☆	3
	64		▲☆	24.3	89.0	▲	○	あり		●☆	2

<備考> ▲、太字=要生活改善、●=要治療、☆=基準値以上の該当項目

OCHISでは全ト協との本格運用を迎えた今年度、全国10カ所でセミナーを開催。ドライバーの健康状態を平成29年度と30年度で比較した実例を紹介し、利用を促している。「見える化で意識が高まり、治療に取り組むケースが大半を占めた。死の四重奏の

該当件数は大きく減った(同)表。

全ト協は1年目の今年度、5000人を対象に助成。来年度は7500人まで拡充し、全国約20カ所でセミナーを行う。作本副理事長は「業界の底上げを図るためにも健康管理は一過性でなく、継続して取り組んでほしい」としている。(遠藤 仁志)